

第 1 学年国語科学習指導案

日 時
学 級
場 所
授業者

1 単元名

「内容について解釈したことを、クラスの仲間にアナザーストーリーで伝えよう」

(光村図書「少年の日の思い出」)

2 単元の目標

- 比較や分類、関係付けの仕方などの情報の整理の仕方についての理解を深め、それらを使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- 目的に応じて、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することができる。 [思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

3 単元について

(1) 生徒の実態

小説は好きで、朝読書の時間などに集中して読書をしている姿が見られる。しかし、国語の授業で「内容を解釈する」となると、難しいと感じる生徒が多い。

国語の授業では、中学校に入学してきてから 3 つの文学的な文章に取り組んだ。「花曇りの向こう」では、人物像を捉えることや情景描写について学んだ。「星の花が降るころに」では、文章の中の描写をもとに人物像を解釈し、捉えた人物像を生かして続編を作った。「大人になれなかった弟たちに……」では、文章の内容を解釈するために、自分たちで考えた疑問を解決し伝え合った。これらのうち続編を作る学習では、想像したり発想したりすることを楽しんで文章を作っていたが、解釈の内容などに課題が残った。

本単元の学習の中でタブレット端末を使用するが、今までにも目的に応じて使ってきているため、基本的操作は身に付いている。

(2) 教材について

教科書の「少年の日の思い出」という小説を教材に使う。小説は二部に分かれ、前半と後半で語り手が変わる。後半は生徒と同年代である「僕」の視点で描かれており、出来事や他の登場人物は「僕」のフィルターを通して描かれている。

担当している生徒たちは「チョウの収集」に興味をもっている生徒が少ないことが予想されるため、「ちょう集め」に熱中する「僕」の言動に共感することは難しく、自分の体験や価値観を根拠にした主観的な解釈に陥るかもしれない。しかし、本教材は登場人物の心情が詳細に表現されているため、自分の解釈を他者と交流して、様々な表現から内容の解釈について話し合う必要性が生まれる教材だと考える。

(3) 指導について

本単元では、小説を読み、内容について解釈したことを、「エーミール」や「母」の視点で描いたアナザーストーリーでクラスの仲間に伝えるという言語活動を設定した。この言語活動を通して、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、描写等を結び付けたりすることで、場面や描写に新たな意味付けを行わせ、内容の解釈に迫りたい。また、場面や描写の結び付け方によって異なる考えが生まれ、解釈に深まりが出ることが理解できるようにしたい。

文学的な文章の内容を解釈した後に文章を書く学習は、2度目の取組になる。そこで単元の最初に、前回の「続編」を書いたときの自分に足りなかったものを分析し、課題として取り上げ、自分なりの目標を設定できるようにする。また、単元の学習計画を子どもたちと一緒に立案し、学習意欲を高め、見通しをもつことができるようにする。

「アナザーストーリー」のイメージをもたせるために、ドラマのスピノフなどを紹介したり、指導者が作った「星の花が降るころに」の「アナザーストーリー」を読ませたりする。ゴールを意識することで、目的をもって解釈しながら小説を読み進められると考える。

また、内容を解釈する際に2回のグループ学習を設定している。他者との解釈の共通点・相違点を認識させ、解釈をより広げたり深めたりすることにつなげたい。さらにタブレット端末を用いて、できるだけ多くの他者が書いた下書きを読み合い、アドバイスカードを送り合うという学習活動を取り入れ、交流を行いたい。

(4) 生徒が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①…発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す
B…主に他者とのから読み解き理解する力	②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

本単元では、Aの側面において、アナザーストーリーをつくるために必要な情報を本文から取り出している(A①)、取り出した情報を目的に応じて分析・整理している(A②)、整理した情報やもらったアドバイスをもとに、解釈した内容を整理し、アナザーストーリーをつくり伝えている(A③)、Bの側面において、相手の思いや伝えようとしていることを理解している(B①)、自分と他者の解釈を比較し、整理している(B②)、他者の解釈と比べることを通して、様々な意味付けに気付き、内容の解釈をより一層確かなものにしていく(B③)、という生徒の姿を目指す。

具体的な学習内容や手立てとして、Aの側面では、発見・蓄積のプロセスにおいて、「アナザーストーリー」を書くために必要な情報を読み取る(A①)。取り出した情報や解釈した内容は、付箋を使って整理する(A②)。また自分の考えを比較するためにタブレット端末を使用することで、送ってもらったアドバイスカードを一覧で見ることができるようになる。そして他者からのアドバイスを整理し、自分のアナザーストーリーに生かせる情報を捉え、よりよいアナザーストーリーをつくることができるようにする(A③)。

Bの側面では、グループ編成を変えて解釈した内容を交流する機会を2回設ける。1回目は「違う人物」を選んだ者と交流することで、内容を客観的に見て考えを広げる。2回目は「同じ人物」を選んだ者と交流することで、内容の解釈を深めていく。どちらの交流においても、解釈した内容を伝え(B①)、共通点・相違点を認識し(B②)、やりとりを通して解釈の内容を広げたり深めたりできるようにする(B③)。また、下書きを読み合いアドバイスカードを送り合う学習活動(Bの側面全体)ではタブレット端末を活用し、より多くの他者の下書きを読むことができるようにする。そして、アドバイスをもとに再度アナザーストーリーをつくり、学習を達成することができるようにする。

さらに、見通しをもって学習し目的意識をもつことができるように、単元の学習計画を自分たちで立てる学習活動を設ける。「アナザーストーリー」をつくるためにどのような学習が必要か、これまでの学習

の経験をもとに考える機会を設け、学習意欲の向上を図る。

単元の終末には時間をかけて振り返りを行い、単元の最初に設定した自分なりの目標達成ができたかどうかを確認する。さらに、この単元の学習を通して「身に付いた力」を言語化することで自覚を促し、次の学習に向かう意欲につなげたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類、関係付けの仕方などの情報の整理の仕方についての理解を深め、それらを使おうとしている。(C(2)イ)	①「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。(C(1)ウ)	①積極的に文章の内容を解釈し、学習したことを生かしてアナザーストーリーをつくり、伝えようとしている。

5 指導と評価の計画(全8時間)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○これまでの学習を振り返り、本単元の学習目標をもつ。 ○「少年の日の思い出」を通読し、話の展開や内容をつかむ。		
2	○「アナザーストーリー」をつくるために何が 必要かを考え、学習計画を立てる。		
3	○どのような「アナザーストーリー」をつくりたいか考える。 ○内容を解釈するために「問い」を考える。		
4	○「アナザーストーリー」をつくるために「問い」について考え、内容を解釈する。 ○解釈した内容を「違う人物」を選んだ者と交流して確認し、情報を整理する。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	ワークシート
5	○解釈した内容を「同じ人物」を選んだ者と交流して確認し、情報を整理する。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	ワークシート
6	○整理した情報を生かして「アナザーストーリー」の下書きをする。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	下書き原稿
7	○出来上がった下書きを読み合い、アドバイスし合う。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	観察
8	○この単元で身に付いた力について振り返る。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	振り返りシートの記述

【単元の流れ】 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	1	<p>○「アナザーストーリー」について知る。</p> <p>○以前の学習を振り返り、今回の単元での個人目標について考える。</p> <p>○指導者が作った『星の花が降るころに』のアナザーストーリーを読んで、「アナザーストーリー」と「続編」の違いを考える。</p> <p>○「少年の日の思い出」を通読し、話の展開や内容をつかみ、登場人物の言動について疑問点を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習で生かせることを振り返らせる。 ・「花曇りの向こう」の続編を見直し、足りなかったものを分析させる。 ・「続編」の時の「物語を書くポイント」を復習する。 ・「アナザーストーリー」をつくるためには、出来事や人物像、登場人物の心情の理解が必要であることを気付かせる。 	
	2・3	<p>○登場人物に着目し、この小説が誰の視点で語られているかを考える。</p> <p>○どのような「アナザーストーリー」をつくりたいか考える。</p> <p>○「アナザーストーリー」をつくるために何が必要かを考え、学習計画を立てる。</p> <p>○内容を解釈するために、「問い」を共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【予想される「問い」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜエーミールは激したりどなりつけたりしなかったのか。 ・母はなぜ根掘り葉掘り聞かなかったのか。 ・僕はなぜちょうをつぶしたのか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」の視点で語られていることに気付かせる。 ・自分なりのゴールイメージをもたせる。 ・「人物の設定を生かす」「実際の言動はそのまま使用する」等、アナザーストーリーをつくる時の条件を明示し、ゴールのイメージをもたせる。 ・<u>通読したときに疑問に思ったことを、これからの学習で解釈していく「問い」として共有する。</u> 	

二	4	<p>○「アナザーストーリー」をつくるために、問いについて考え、必要な内容を解釈する。</p> <p>○解釈した内容を、「違う人物」を選んだ者と交流し、情報を整理する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「問い」の答えを出すときに、<u>「文章のどの場面や描写に注目したのか」や「どの場面とどの描写を結び付けたのか」を意識させる。</u> ・「自分にはなかった解釈やその根拠を集めるために交流する」という目的を生徒と共有する。 ・「違う人物」を選んだ人の意見を聞き、解釈の幅を広げる。 ・交流するときには、読み取った出来事と解釈した内容、なぜそう解釈したのかという根拠を視点として交流させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能】① <u>ワークシート</u> 本文から必要な情報を読み取って、付箋に記入し、「解釈シート」に整理できているかを確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】① <u>ワークシート</u> 必要な情報に着目し、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして内容を解釈しているかを確認する。</p> </div>
二	5 〔本時〕	<p>○解釈した内容を、「同じ人物」を選んだ者と交流し、情報を整理する。</p> <p>○再度「アナザーストーリー」をつくるために必要な内容を解釈したり、集めた情報を整理したりして、解釈を見直す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「<u>解釈やその根拠の共通点や相違点に注目し、みんなが納得できる解釈をするために交流する</u>」という目的を生徒と共有する。 ・「同じ人物」を選んだ人の意見を聞き、解釈の内容を広げたり深めたりできるようにする。 ・<u>解釈した内容と、なぜそう解釈したのかという根拠を視点として交流させる。</u> ・<u>自分でもう一度考えたい内容については、「再考カード」に記入させる。</u> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能】① <u>ワークシート</u> やりとりを通して情報を集め、付箋に記入し、「解釈シート」に整理できているかを確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】① <u>ワークシート</u> 必要な情報に着目し、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈しているかを確認する。</p> </div>

三	6	○整理した情報を生かして、「アナザーストーリー」の下書きをする。	・「人物の設定を生かす」「実際の言動はそのまま使用する」等、アナザーストーリーをつくる時の条件を確認する。	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕①</p> <p><u>下書き原稿</u></p> <p>学んだことを生かして、アナザーストーリーをつくらうとしているかを確認する。</p>
	7	○出来上がった下書きを読み合い、アドバイスや質問をし合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・「同じ人物」を選んだ者の下書きを読ませる。 ・タブレット端末を使い、できるだけ多くの人の下書きに触れさせる。 ・<u>他者が書いた下書きを、自分の下書きと比べながら読ませ、自分の解釈と他者の解釈の相違点に気付かせる。</u> 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕①</p> <p><u>観察</u></p> <p>学んだことを生かして、アナザーストーリーをつくらうとしているかを確認する。</p>
	8	○この単元で身に付いた力について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「身に付いた力」を認識させ、次の学習の意欲につなげる。 ・「単元の目標が達成できたのか」「自分なりの目標を達成できたのか」「次の学習に生かせることは何か」を振り返る。 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕①</p> <p><u>振り返りの記述</u></p> <p>積極的に文章の内容を解釈できたか、学習したことを生かしてアナザーストーリーをつくることができたかを確認する。</p>

6 本時の目標（本時：5／8時間目）

自分がアナザーストーリーを書くために必要な情報を理解し、場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することができる。（C 読むこと：ウ）

7 本時の評価規準

他者との交流を生かし、アナザーストーリーを書くために必要な内容を解釈できている。

8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
導 入	<p>①前時までの学習を振り返り、本時の学習の目標を確認し、この時間の学習の見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>アナザーストーリーを書くために、みんなが納得できる解釈をしよう</p> </div> <p>②「同じ人物」を選んだ者でグループを組み、解釈した内容を「みんなが納得できるか」を観点にして交流する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【「問い」に対する答えの予想】 「なぜエーミールは激したりどなりついたりしなかったのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繕おうとするくらい大切なちょうだったから、怒りが強すぎて態度に出せなかったのではないかな。 ・批評家で、どんなときでも冷静な人だから。 ・おもちゃも断るくらいだから、怒ってもちょうは元に戻らないとあきらめていたのではないかな。 </div> <p>③「再考カード」を貼った内容を確認するために、もう一度本文から内容を読み取ったり、集めた情報を整理したりする。</p> <p>④交流を通して分かったことや、交流で見つけた「アナザーストーリーに生かしたいこと」をまとめる。</p> <p>⑤本時の学習を振り返る。</p>	<p>・「みんなが納得できる解釈」を目指すことを確認する。</p> <p>・ワークシートをもとに、解釈した内容や結び付けた場面や描写などを話し合わせる。</p> <p>・解釈に違いがあるもの、根拠に違いがあるものに注目させる。</p> <p>・間違っていたもの、疑問が残るものについては、「再考カード（付箋）」に記入し、後ほど自分で本文を読み直すように指示する。</p> <p>・「なぜエーミールは激したりどなりついたりしなかったのか」や、「なぜ母は何も聞かなかったのだろう」というような、最初に考えた「問い」の解決を意識させる。</p> <p>□やりとりを通して情報を集め、付箋に記入し、「解釈シート」に整理している。（ワークシート・付箋）</p> <p>・新たな情報があれば、ワークシートに書き加えるよう指示する。</p> <p>□必要な情報に着目し、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している（ワークシート）</p> <p>・本時のめあてが達成できたかどうか考え、振り返りシートに記入する。</p> <p>・次時の見通しをもつ。</p>

9 生徒が「読み解く力」を、高め、発揮するための授業づくりのポイントと参観の視点

本時では、生徒が考えを広げたり深めたりするために、解釈したことについて交流する時間を長く設ける。前時は「違う人物」を選んだ者とグループを組んで交流しているが、本時は「同じ人物」を選んだ者でグループを組み、解釈した内容について、より深く話し合えるようにする。また、交流の後に個人でもう一度考える時間を設け、考えを深めさせたい。

- (1) 「解釈した内容がみんなが納得できるものか」という観点に従って、交流できていたか。
- (2) 交流の中で、場面と場面、場面と描写を結びつけながら、最初に考えた「問い」を解決しようとしていたか。
- (3) 「再考カード」を生かし、根気強く、本文の内容を解釈しようとしていたか。